



「人口減の時代にこそ必要」

圏域つなぐ東九州新幹線、豊予海峡ルート

大分、宮崎、愛媛 3県シンポジウム期待の声

東九州新幹線や豊予海峡ルート構想など、大分県に關係する広域交通網の整備を考えるシンポジウムが22日、別府市のビーコンプラザであった。主催した大分県と、宮崎、愛媛両県の関係者からは産業振興や観光需要増大などの効果を期待する声が相次いだ。

大分県は福岡市から大分、宮崎両市を経由して鹿児島市まで結ぶ東九州新幹線計画、愛媛県との間の豊予海峡を橋やトンネルでつなぐ構想の推進などを掲げている。

豊予海峡ルートが実現することでの経済面の効果について、大分経済同友会の橋本均副代表幹事(マリーナパレス社長)は「大分は九州圏と瀬戸内圏の結節点として重要な場所になる」と考える。



基調講演する岡野秀之氏

と考える。

伊方原発がある愛媛県の高門清彦伊方町長は大規模災害に備えて大分県への避難路が必要と説明。「実現へのハードルは高いが、国家プロジェクトに認めてもらうには地元の盛り上がりが必要だ。できることは全てやる」と訴えた。

宮崎県総合政策部の田中克尚政策調整監は東九州新幹線の整備効果を指摘。「大分市と宮崎市は日豊線で3時間かかる。速達性のある交通機関が必要だ。新幹線自体も観光資源になる」と力を込めた。

大分県をはじめ東九州では今後も人口減少が進む見通し。九州経済調査協会(福岡市)の岡野秀之常務理事は「一定規模の人口がなければ映画館や商業施設などは成り立たない。これからの時代こそ、広範囲から人を呼び込める交通体系が地方に求められる」と語った。

佐藤樹一郎大分県知事は広域交通網の形成に県域を越えた取り組みが重要との立場から、「いかに連携を広げるかが次の課題になる」と述べた。

シンポジウムはネットワークづくりに向けた機運醸成が目的で、約400人が出席した。岡野常務理事による基調講演もあった。

(江藤嘉寿)



上)広域交通ネットワークの整備について意見交換するパネリスト
下)会場で話を聞く約400人の出席者。22日、別府市。撮影・山戸孝哉



〔問①〕大分県の関する広域交通網は2ルートが考えられています。何と何でしょう。

答え【 東九州新幹線、豊予海峡ルート 構想 】

〔問②〕それぞれに対する期待の声を記事から探し出しましょう。

解答例【 (東九州新幹線) 「速達性のある交通機関が必要。新幹線自体も観光資源になる」
(豊予海峡ルート) 「大分は九州圏と瀬戸内圏の結節点として重要な場所になる」 】

〔問③〕あなたはこの2ルートのどちら、またはそれ以外の、どういった交通体系の実現に期待しますか？ 理由とともに考えよう。

※自由記述